

又<sub>七</sub>安思我良乃美佐可加思古美廿<sub>二十</sub>に阿志加良能美佐可多麻波理又<sub>四十</sub>安之我良乃美  
 佐可爾多志氏又<sub>四十</sub>安之我良乃夜敵也麻故要氏などあり十四には阿之我利とよめる歌も  
 あり後の歌には關を多くよめり此山駿河と相模の堺なり東國の道今は管根を越れど古は  
 足柄を越るぞ大道なりける此ハ甲斐國に幸す道なれば更なり此道は相模より此坂を越て  
 富士の東北方の麓を経て甲  
 斐道なり出る坂本は相模の方より上る坂本なり

〔萬葉集三〕造筑紫觀世音寺別當沙彌滿誓歌一首

鳥總立足柄山爾船木伐樹爾伐歸都安多良船材乎

〔萬葉集四〕和我世古乎夜麻登敵夜利底麻都之太須安思我良夜麻乃須疑乃木能末可

安思我良能波姑禰乃夜麻爾安波麻吉氏實登波奈禮留乎阿波奈久毛安夜思略中

安思我里乃波故禰能禰子乃爾古具佐能波奈都豆麻奈禮也比母登可受禰牟略中

右十二首相模國歌

〔萬葉集二十〕和我由伎乃伊伎都久之可婆安之我良乃美禰婆保久毛乎美等登志怒波禰

右一首都筑郡上丁服部於田

武藏國 御嶽山

〔雲萍雜志三〕予江戸にありしころ武甲山にまうで日本武尊の舊地を拜せんと雨降山かけて人のまうづるにともなはれ青梅村より御嶽山に登れりこのあたり承平のころ平の將門が舊壘多くすべて古戰場とぞ道しるべするもの江戸の人にしてもこのあたりの産なりといへり

武野古戰場記に云武を崇め嶽の高きに藏して神威を承平の和にしめし文を黎民の際にやはらげ徳を國家の仁政にしきぬるむさしの國御嶽の山は叔倉子義を違へぬ標有梅の青梅の里まで江戸を去ること十有三里にして行程に山河橋陵なし青梅村中金剛精舎古樹の梅あり四時實を結び熟すれども緑のいろをかへざるが故に青梅の名あり連山西北をめぐりてさな